

アシテアダニ舌下錠 100 単位 (IR)
 アシテアダニ舌下錠 300 単位 (IR)

【この薬は？】

販売名	アシテアダニ舌下錠 100 単位 (IR) Actair House Dust Mite Sublingual Tablets 100 units (IR)	アシテアダニ舌下錠 300 単位 (IR) Actair House Dust Mite Sublingual Tablets 300 units (IR)
一般名	ヤケヒョウヒダニエキス原末 コナヒョウヒダニエキス原末	
含有量 (1錠中)	ヤケヒョウヒダニエキス原末 50 単位 (IR) コナヒョウヒダニエキス原末 50 単位 (IR)	ヤケヒョウヒダニエキス原末 150 単位 (IR) コナヒョウヒダニエキス原末 150 単位 (IR)

・ IR : アレルゲン活性単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・ この薬は、ダニから抽出したエキスを原料とする減感作療法薬（アレルゲン免疫療法薬）です。
- ・ この薬はダニ抗原によるアレルギー性鼻炎の原因となるダニのエキス原末を使用し、体を慣らすことでアレルギー性鼻炎の症状を徐々に弱めます。

- ・次の目的で処方されます。

ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対する減感作療法

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬を使用する前に、ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎であるかの診断を行います。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にこの薬を使用してショックをおこしたことがある人
 - ・重い気管支喘息（きかんしぜんそく）の人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・過去にこの薬、またはアレルギーエキスによる診断・治療などにより、アレルギー症状を経験したことがある人
 - ・気管支喘息の人
 - ・悪性の腫瘍、免疫系に影響を及ぼす全身の疾患（例えば自己免疫疾患、免疫複合体疾患、または免疫不全症など）を伴う人
 - ・高齢の人
- この薬を使用することにより、アナフィラキシーなどの重篤なアレルギー症状を起こすことがあります。
アナフィラキシーの症状や症状がおきたときの対処方法について、患者さんやご家族の方は十分に理解できるまで医師から説明を受けてください。
口腔浮腫、咽頭浮腫、悪心、消化不良などの症状があらわれた場合にはただちに医師に連絡してください。
- 非選択的β遮断薬（高血圧・狭心症・不整脈などの薬）を使用中の人、三環系抗うつ薬およびモノアミンオキシダーゼ阻害薬（遺尿症、うつ病、パーキンソン病などの薬）を使用中の人、または重い心疾患、肺疾患、高血圧症の人では、この薬によるアレルギー反応の処置の場合など注意が必要な場合があります。これらの人は必ず医師または薬剤師に相談してください。
- 経口または注射のステロイド薬を使用中の人では、この薬の効果が得られない可能性があります。これらの人は必ず医師または薬剤師に相談してください。
- 他の減感作療法との併用によりアレルギー反応の発現が増加する可能性があるため、併用する場合には注意してください。
- 小児の場合、この薬を適切に舌の下に入れて使用できることが確認されてから使用が開始されます。また、保護者の方もこの薬の適切な使い方について説明を受けてください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

通常、使用量と回数は次のとおりです。

原則として使用量は3日間で徐々に増やした（増量期）後、維持させます（維持期）。

	1日目	2日目 (増量期)	3日目以降 (維持期)
1日量	100単位(IR)	200単位(IR)	300単位(IR)
使用回数	1日1回		

使用量の増量期間は、状態によって延長する場合があります。

●どのように使用するか？

- ・舌の下にこの薬を入れて完全に溶けて無くなるまで保持した後、飲み込みます。飲み込んだ後、5分間はうがいや飲食をしないでください。
- ・初回の使用は医療機関で行います。使用後少なくとも30分間は安静にしてください。
- ・アナフィラキシー症状が起きたときでも対応できるように、できるだけご家族の方がいる場所や日中に使用してください。
- ・増量期にアレルギー症状があらわれた場合は、次回の使用量について医師に相談してください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。翌日に気がついた場合は、1回分を使用してください。

使用開始後2日目に使用し忘れた場合は、翌日に改めて2日目の分量を使用してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・次の場合には、この薬を使用せずに医師または薬剤師に相談してください。
 - ・風邪などの急性気道感染症にかかっているとき
 - ・気管支喘息の症状が激しいとき
 - ・抜歯など口の中の手術後、または口の中に傷や炎症などがあるとき
- ・この薬の使用後30分間あるいは使用開始初期は、アナフィラキシー症状に注意してください。
- ・この薬を使用する前と、使用した後の2時間は、激しい運動、飲酒や入浴などを避けてください。また、使用した後2時間以降にこれらを行う場合にもアナフィラキシーなどの副作用があらわれるおそれがありますので注意してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の人は、授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬

を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、息苦しい、動悸（どうき）
咽頭浮腫・喉頭浮腫 いんとうふしゅ・こうとうふしゅ	声が出にくい、喉がつまる感じ、息苦しい、息をするときヒューヒューと音がする、飲み込みにくい、吐き気、嘔吐（おうと）

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき
頭部	めまい、意識の消失
顔面	顔面蒼白
口や喉	喉のかゆみ、声が出にくい、喉がつまる感じ、息をするときヒューヒューと音がする吐き気、嘔吐
胸部	息苦しい、動悸
皮膚	じんま疹、全身のかゆみ

【この薬の形は？】

販売名	アシテアダニ舌下錠 100 単位 (IR)	アシテアダニ舌下錠 300 単位 (IR)
形状	円形の錠剤	円形の錠剤

販売名	アシテアダニ舌下錠 100 単位 (IR)	アシテアダニ舌下錠 300 単位 (IR)
		
PTP シート	1 錠入り  表面 裏面	 表面 裏面
	2 錠入り  表面 裏面	
直径	6.0 mm	6.0 mm
厚さ	3.6 mm	3.6 mm
重さ	100 mg	100 mg
色	褐色の斑点入りの 白色～褐白色	褐色の斑点入りの 白色～褐白色
識別コード	S AC : 100	S AC : 300

【この薬に含まれているのは？】

販売名	アシテアダニ舌下錠 100 単位 (IR)	アシテアダニ舌下錠 300 単位 (IR)
有効成分	ヤケヒョウヒダニエキス原末 コナヒョウヒダニエキス原末	
添加物	D-マンニトール、結晶セルロース、クロスカルメロースナトリウム、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物	

【その他】

- この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：塩野義製薬株式会社

(<https://www.shionogi.com/jp/ja/>)

医薬情報センター

電話：0120-501-074

受付時間：9時～17時（土、日、祝日を除く）

<この薬の使用法>

アシテア[®]ダニ舌下錠の 治療を受けられる患者さんへ



アシテア[®]ダニ舌下錠は、ダニによるアレルギー性鼻炎を治療するための免疫療法のお薬です。

お薬を初めて服用する人は、検査を受けて、
ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎の診断を受ける必要があります

服用方法 ▶ 1日1回、服用します。

- ① お薬を舌の下に入れます。※口の中が濡れているときは、事前に飲み物で口の中を湿らせてください。
- ② お薬が完全に溶けるまでそのままにし(約2分間)、唾液を飲み込みます。
- ③ うがいや飲食を控えます(溶解後5分間)。



注意事項

- お薬が完全に溶ける前に飲み込んだ場合は、お薬の通り道に影響するおそれがあるので、水などの飲み物を飲んでください。
- お薬が溶けてから5分間は、お薬の効果に影響しないように、うがいや飲食をしないでください。
- 服用前^{注)}、及び服用後2時間は、激しい運動、アルコール摂取、入浴等避けるようにし、服用後2時間以降もこれらを行う場合には、アナフィラキシー等の副作用の発現に注意してください。
- 副作用等により、増量や服用してよいか迷ったときには服用前に医師に相談してください。
- アシテア[®]ダニ舌下錠を他の人に渡さないでください。
- アレルギー症状の有無にかかわらず、数年間にわたり、毎日継続して服用する必要があります。
- 少なくとも月に1度は受診してください。

注)服用前に激しい運動、アルコール摂取、入浴等を行った場合は十分に落ち着いてから服用してください。

服用期間とスケジュール ▶ 1日目は医療機関、その後は自宅で服用します。



※ 副作用等により、増量期を長くとることがあります。



● 次のようなときは、服用前に医師に相談してください

- 風邪や喘息の症状が激しいとき
- 口の中に傷や異常があるとき、歯を抜いたとき
- 増量期に口の中の腫れ、のどの腫れ、吐き気、消化不良などの症状があらわれたとき
- 服用を長期に中断した後に再開するとき

なお、服用を中止する場合も医師に相談してください。

患者さんが未成年である等、
症状や口の中の状態を
判断できない場合は、
保護者が確認した上で
医師に相談してください。



服用後、特に気をつけること



! アシテア®ダニ舌下錠の服用後30分間及び治療開始初期は、次のような症状に注意してください。症状があらわれた場合は、**直ちに医療機関を受診してください。** [SAMPLE]

アナフィラキシーの前兆症状 (お薬を服用してから30分以内にあらわれることが多い)

- 皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑・皮膚の発赤等
- 胃痛、吐き気、嘔吐、下痢等
- 視覚の異常、視野が狭くなる等
- 咳、声のかすれ、鼻がつまる、くしゃみ、のどのかゆみ、胸のしめつけ感、息苦しさ、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音）、チアノーゼ（皮膚や粘膜が青紫色になる）等
- 脈が速くなる、不整脈、血圧が下がる等
- 不安、恐怖感、意識がぼんやりする等



アシテア®を服用される患者さんや保護者の方へ

本剤の服用を受ける際には、薬剤師に本カードをご提示ください。本剤服用後30分間および治療開始初期は、次のような症状に特に注意してください。
 ▶ 症状があらわれた場合、直ちに医療機関を受診してください。▶

アナフィラキシーの前兆症状 (薬を服用してから30分以内にあらわれることが多い)

皮膚の症状 皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑・皮膚の発赤等

消化器の症状 胃痛、吐き気、嘔吐、下痢等

眼の症状 視覚の異常、視野が狭くなる等

呼吸器の症状 咳、声のかすれ、鼻がつまる、くしゃみ、のどのかゆみ、胸のしめつけ感、息苦しさ、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音）、チアノーゼ（皮膚や粘膜が青紫色になる）等

循環器の症状 脈が速くなる、不整脈、血圧が下がる等

その他の症状 不安、恐怖感、意識がぼんやりする等

製薬会社 薬機部特許第302725号 アシテア®(アピラキシー) 平成20年3月19日(平成22年6月一部改訂)より

私はアレルギー免疫療法を行っています。

フリガナ	生年月日	大・昭・平
氏名	年 月 日生	
医療機関名/連絡先	電話	()
医師名	電話	()
アシテア®を受診した医師番号		
時間外連絡先	電話	()

本カードは必ず携帯してください **シオノギ製薬**
[RMP]

「患者携帯カード」は常に携帯してください。

特に緊急性の高いアレルギー症状が出た場合 下記のような症状に一つでも当てはまる場合、**救急車を呼ぶなど迅速な対応が必要です。ご家族の方も注意してください。**

- 循環器の症状**：脈が速くなる、不整脈、血圧が下がる
- 呼吸器の症状**：咳、声のかすれ、鼻がつまる、くしゃみ、のどのかゆみ、胸のしめつけ感、息苦しさ、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音）、チアノーゼ（皮膚や粘膜が青紫色になる）
- 消化器の症状**：胃痛、吐き気、嘔吐、下痢
- その他の症状**：意識がぼんやりする

●●● お薬の飲み方を間違ったり、飲み忘れてしまった場合 ●●●

- **完全に溶ける前に飲み込んだ場合**
 - ▶ お薬の通り道に影響するおそれがあるので、水などの飲み物を飲んでください。
 - ▶ 再度、服用しないでください。
 - ▶ 翌日はその日の1回分の用量を服用してください（2回分は服用しないでください）。
- **誤って多く服用した場合**
 - ▶ 直ちに吐き出して、うがいをしてください。
 - ▶ 翌日、改めて1回分の用量を服用してください。
 - ▶ 増量期（投与2日目）に誤って多く服用した場合、翌日は2日目に服用する予定だった用量を服用してください。
- **飲み忘れた場合**
 - ▶ 飲み忘れても、その日のうちに気づいた場合、その日の用量を服用してください。
 - ▶ 翌日に気づいた場合は、1回分だけ服用してください（2回分は服用しないでください）。
 - ▶ 増量期（投与2日目）に飲み忘れた場合、翌日は2日目に服用する予定だった用量を服用してください。